

みんなで守ろう安倍の清流

一夏の日、子供たちと楽しみながら

安倍川フォーラム 会長 築地勝美

起 きっかけ

『時は平成のある日舞台は安倍川を見渡す土手の上でのおじさん達の会話。』

ミチヒサ：「最近河原で遊ぶ子供を見なくなったな」
カツミ：「そお言やあ子供だけじゃなく、釣りする衆も見なくなったなあ」

幼い日に「河童」と呼ばれ、安倍川で魚や虫を追いかけて回し、毎日当たり前に水と多くの時間を過ごした経験を持つ、40～50歳代のおじさんにはなんとも寂しい光景でした。』

私たちの安倍川は深く赤石山脈の懷にその源を発し、駿河湾に勢い良く流れ込む天下の急流です。急流がゆえに形成される扇状地は肥沃で、有史以前から（登呂遺跡）私たち人間は豊かな環境のもと、この静岡の地に歴史を刻んできました。この素晴らしい安倍川が昭和の後半から変わりはじめました。一年を通して水量が減り、僅かに流れる本流も常に白濁しています。水量の減少とともに魚影は薄くなり、いつしか遊ぶ人影を見ることが難しくなっていました。なぜ河原から子供達の歓声が消えたんだろう？原因は様々。暑い、寒い、魚がいない、水が少ない、楽しくない、危ない、汚い等々、他に安倍川が急流河川であるために「危険！」との理由から「川で遊ばないように」子供達を指導した時期もあったと記憶しています。思えば、河原の人陰が少なくなると期を同じくして、安倍川の荒廃は進みました。水量が減り、水が濁り、魚がいなくなり、巨大なものも含め大小様々な流木が横たわる。このままでは荒廃はもっとすすんでしまう。

『再び場面は土手の上、
ミチヒサ：「遠くから来て、なんにも釣れねえじゃかわいそうだな」
カツミ：「ほんとになあ。子供っちが遊ばねえのも寂しいな」

ミチヒサ：「オレもそお思うだよ。なんとかするか」

カツミ：「オオ、やってみぎあ」

ミチヒサ：「みんな誘ってみるか？」

カツミ：「オオいいな。みんなでやらぎあ」

河原に仲間を市民を子供たちを呼び戻したい。川の楽しさ、素晴らしさを一緒に体験することで安倍川を意識してもらえたら。みんなの意識が川に向かえば安倍川はきっと蘇る。』

と「こんな想い」が、始まりでした。

承 とりあえず情熱的に

安倍川の素晴らしさ、楽しさを市民に伝えていくのは、それを知っている最後の世代、40～50才代の昔「河童」と呼ばれた私たちの役目。元気に動けるうちにと早速とりかかりました。

『場面はかわってミチヒサくんちの居間

ミチヒサ：「ヨッちゃんら、シゲちゃん、ツネコウ、クシマくんはハルミ、ヒミさん……」

カツミ：「イチロウさんにカゴさん、キヨミくん、ヌマノ、ヒロシくん、ギンボー……」

ミチヒサ：「いっぱいいるけど、いっぱいのほうがええなあ」

カツミ：「ええさ、いっぱいのほうが、わいわいやらぎあよ」

手遅れになる前になんとかしよう。手始めに多くの人に河原に出て川の現状を知ってもらうために、自分たちの知ってるかぎり広い分野の仲間、それも「人のためではなく我が楽しみとして」力を発揮してくれる、そんな仲間に出会えました。』

静岡市は一級河川安倍川の源流から河口まで全てを所有しています。これは全国的に見ても珍しいことで、その貴重な自然環境や水資源は静岡市民の財産となっています。この貴重な財産の現状をいろいろな活動やイベントを通じて多くの市民に

見てもらい知ってもらうことで、環境に対する市民意識の向上はもちろん、新たな静岡の価値の創出や今までになかった連携連帯が生み出せると考えました。また様々な体験は、川の現状が山や海はもちろん、自分達の都市生活とも深く繋がっていることを知る機会となり、点ではなく面として環境を意識するきっかけに出来、その上安倍川の素晴らしさに触れ、川遊びの楽しさを知ってもらえば川に対する興味は自然に高まり、常に関心を持って安倍川を見てくれるようになるとも考えました。

きれいな言葉でわかりやすく言うと「安倍川を舞台に様々な自然体験活動を通じて、関係行政と連携しながら環境に対する市民意識を育てる活動。」とかになるのかもしれませんが。もちろん、川遊びや環境保全活動を通して安倍川の素晴らしさや楽しさを体験してもらうことで、静岡市民の大切な「安倍川」に感心をもち、かけがえのない環境に対する市民意識を育てることは出来ると思います。加えて、イベントや活動に多くの市民が手弁当で参加、共通体験をすることによって若、中、高年層間の交流が生まれ、市内全域の人たちが「素晴らしい安倍川」のもとで交流することで改めて郷土「静岡」を考え、「新たな静岡」を創出する人的ネットワークの源泉にできるとの意図をもって活動を進めているのも事実です。でも、安倍川フォーラムはもっと情熱的に発生しました。そう、「この素晴らしき安倍川の自然を私たち大人が責任を持って次世代を担う子供達に渡すこと。なにより、川遊びに夢中になれるおじさんたちを通して、安倍川の大切な素晴らしさを伝える活動。」として、まさしく情熱的なスタートです。

また、この文中でもそうですが、安倍川フォーラムでは「ボランティア」という言葉を使いません。これはとっても大切な事で、理由は簡単「我が事

として」に価値があると考えからです。協力者には自己判断、自己責任で参加していただき、安倍川の様々な問題を積極的に「我が事として」実感できるようにしています。とにかく参加してくれた方々が「我が事として」楽しめるような環境を整えるために、関連行政や関係地域町内会等の皆さんには深いご理解をいただき、多くのご協力をいただくよう環境作りに留意しています。

市民の財産「安倍川」をきれいなまま子供

転 そんなこんなで「今日まで」は

達の世代に受け渡すために流木清掃や草取り活動、魚や昆虫の養殖活動、特に子供に対して安倍川環境に対する問題意識の啓発、啓蒙イベントを行う実行派集団として活動しています。組織はやる気になれば誰でも自発的に参加できる全く任意の集団として、現在会員数687名、静岡市安倍川本流域の源流部から河口までを活動域としています。主な活動は次のようです。

1. 子供たちに川の素晴らしさ、川遊びの楽しさを伝える安倍川フォーラムメインイベント

年より毎年7月、「海の日」前日の日曜日に、安倍川中流部牛妻河川敷スポーツ広場及び河原で開催。協力メンバー250名の力を借りて夏の一日めい



写真1 安倍川フォーラムイベント：にぎやかでした

みんなで守ろう安倍の清流

一夏の日、子供たちと楽しみながら

安倍川フォーラム 会長 築地勝美

っぱい子供たちに川遊びを楽しんでもらうイベント。日頃出来ない川での水泳や水遊び、やまめや沢ガニのつかみ取り、利き水コンテスト、アドベンチャー筏体験等々。一日遊ぶ子供たちはもちろん準備をして迎え入れる大人もしっかり楽しんでいる。平成11年の参加者は600名弱でしたが、子供や親たちの口コミで評判が拡がり今年、平成17年の参加者は1,500名余を数えました。



写真2 イベントのお楽しみ、やまめの掴み獲りとれた、うれしい

2. 川の文化、筏の復活

平成14年に本式三連筏を復活。自動車が普及する一時代前には重要交通手段、物流手段として筏が存在していました。このことを市民や子供たちに伝えるために筏を復活させました。元安倍川の筏師を講師として招き本筏の組み方を修得。その後子供たちのアドベンチャー筏に改良。現在小学校対象の筏体験教室やメインイベントで大活躍。学校またはクラス単位で年3回の開催



写真3 安倍川に本式五連筏復活



写真4 アドベンチャー筏に改良
子供たちより付き添いのおじさんの方が楽しそうにしているのはなぜ？

3. 海に出たらとても危険。流木一掃作戦
(平成15年～ 毎年11月)

山の過疎化が進んだ結果、巨大な流木が海に出て漁民を悩ませています。一般に加えて安倍川沿線の土木建設関係の業者さんたちが重機（ユンボやホイローダー60台余り）で手弁当参加。危険な巨大流木を河川から取り除きます。終了後しし鍋で身体を暖め、親交を暖め、今までにない新しい

交流の場となっています。参加者は350名です。

4. ヤマメ、かぶと虫の養殖

前述のメインイベントや放流事業で使うために安倍川フォーラムのメンバーが養殖。魚の知識、生物の神秘、川の知識を学ぶ大切な場となっています。

5. 楽しさの原点、生き物とのふれあい。やまめの放流活動

これは安倍川フォーラムを立ち上げるずっと以前から、小学校を対象にやまめの放流授業を開催しています。小さな命とふれあうことで自然に対する慈しみの心を育てて欲しいと思って続けています。学校またはクラス単位で年5回の開催

6. そのほかいろいろ、小さな清掃活動や啓発活動などたくさんあります。

安倍川フォーラム結成以前は、平成6年～平成10年まで子供たちを招いて年一回の川遊び体験、昭和55年頃～現在進行形でやまめ放流活動を個人的なレベルで極地域限定的にやっていました。それが安倍川フォーラムで力が結集されたことで有機的な繋がりをもって一気に発展、今では市内各地の町内会や学校、行政機関や漁協などとも連携して様々な取り組みが出来るようになりました。安倍川フォーラムの結成で人脈が人脈を呼び、各分野の専門家の技術や意見を取り入れることが出来るようになった結果だと考えています。現在では力を貸してくれる会員も600名を超えますそのネットワークの力を発揮しています。このネットワークに参加してくれている「ひとたち」こそ私たちが目的としていたものです。昨年夏のメインイベントには子供中心に1,500名を超える人々が集まり思いっきり「安倍川」を楽しみました。また「アドベンチャー筏体験」や「やまめ放流教室」には多くの小学校からのご依頼をいただけるよう

になりました。

勢い良くお話させていただきました。が、一つだけ現実的な話をさせてください。資金面では皆さんからの寄付とバザーの収益が主財源です。まったく足りないために、活動で使えそうな物を見つければ現物で寄付していただくようお願いしています。そのせいか一部で「乞食（こんじき）フォーラム」と呼ばれています。が、おもえばこれも清廉の勲章、ありがたく拝受し今後も皆さんのご好意に甘えるつもりでいます。逃げずに積極的かつ自発的なご支援をお願いします。

結　そして「明日から」は

人が人と呼び連携が新たな連携を生む。まさしく口コミによる伝搬、この力は必ず安倍川を再生させます。また、活動拠点として念願、切望していた自然親水公園が国土交通省の英断と静岡市の協力によって整備されることになり、今後の活動の展開、発展、充実がますます楽しみです。

活動理念は今後も、「一人でも多くの市民、特に子供たちに安倍川の楽しさ素晴らしさを伝える」です。拡がるネットワークを駆使して、少子高齢化が進む現代社会の中で80万市民の大切な水源として、子供には楽しく、ひろく市民が憩え、ご高齢の方々には優しい、そんな安倍川を創造していく活動をしていきます。加えて、参加の皆さんの張りあいになるように、「筏組講座」、「やまめ養殖講座」等専門的な分科会を積極的に開催していきます、結果として人材育成に繋げ、より高度な活動を重層的に展開していける実行派集団をめざしていきます。将来的には小学校での屋外授業、自然体験の場としてはもちろん、中、高校での社会参加活動の場としても連携機会を増やせるように、人的、制度的な環境整備などしていきたいと考えています。

みんなで守ろう安倍の清流
一夏の日、子供たちと楽しみながら
安倍川フォーラム 会長 築地勝美

最後に、観念的と言われてしまうのでしょうか、安倍川フォーラムに参加してくれた方々や子供たちが第二、第三のフォーラムを結成して安倍川を次の世代に伝えて行く、全国各地で活躍してくれる。そんな連鎖に出来ればと願って止みません。

続 すべては「我が事として」

安倍川は静岡の中、静岡は日本の中、日本は世界の中
皆さんの活動が実を結ぶこと、御祈念申し上げます。